

オランダ稲門会

Netherlands



Netherlands

問い合わせ
nikomonkai@gmail.com

会員からのメッセージ

●前任地のシンガポールでは2008年と09年の2年にわたり稲門会X'masパーティーでサンタクロース役をして、今はオランダに異動してきました。実はサンタクロースのお祝いはアメリカに渡ったオランダ移民のお祭りが変化したもので、本家オランダではいくつかの違いがあります。当地のシンタクラス(聖ニコラウス)はスペインから蒸気船で毎年11月中旬にやってきます。トナカイに代わりお供の黒人ピート君が場を盛り上げ、12月5日にはよい子にプレゼントを配ります。しかし悪い子にはプレゼントを入れる白い布袋ではなく、茶色の麻袋に詰めてスペインに連れ去るという言い伝えがあります。オランダ稲門会でもシンタクラスになれる日が待ち遠しいです。写真は稲門会メンバーの事務所を訪問された本物のシンタクラス様です。

片岡智志(副会長、1985年教育)

●青春を謳歌し過ぎて就職活動に失敗した私の船出は、希望に満ちたものではなかったものの、それでも社会の波に揉まれ、今はアムスにて何とか人並みの仕事をするようになりました。この間、母校を想う心は、いつも「もう少し勉強しとけばよかった」との自責の念で厄介なものでした。オランダ稲門会に出会うまでは。ここの大先輩、先輩および後輩は、皆さんやはり青春をやや謳歌し過ぎた感じがあり、今ではもっと遊んでおけばよかったと思うことも。

オランダの魅力は司馬遼太郎の『オランダ紀行』、最近ではPHPの『幸せな小国オランダの智慧』にて詳細がわかりますが、とにかく合理主義。型にはまらず、とことん議論して即行動する国民と付き合うには相当のエネルギーを要します。一方で人間愛に満ちあふれ、震災後の数々のチャリティーイベントは今ここで紹介するまでもないでしょう。オランダとオランダ稲門会。人生観を変えてくれます。

服部哲也(事務局、1997年法学)

オランダ稲門会の人びと

People



シンタクラス

●2003年に留学生としてオランダに渡って参りまして、以来地元ハーグの法律事務所勤務いたしております。真っ平らな大地、アンティークな風車群、色鮮やかなチューリップ畑と、日本とは気候風土の全く異なる欧州大陸の片隅に住んでいるはずなのに、稲門会に参加するといつも、まるで早稲田界隈で飲んでいるような、とても懐かしい錯覚を覚えます。集り散じて人は変れど仰ぐは同じき理想の光。校歌の一節の意味を改めてかみしめるとともに、早稲田の杜で学ぶことができたことに心から感謝する毎日です。

岡野謙次(2001年法学、03年アジ太研)



ライデンの風車

●福岡の片田舎で出会ったわれわれ夫婦は、早稲田で熱い青春時代を過ごしました。国際部で日本語をマスターした妻と日本で暮らし続けていくものと思っておりましたが、「オランダの子どもは世界で一番幸せ」というユニセフの調査結果を見たあと、オランダに移住することに決めました。ビザを取得後、就職活動で出会った早稲田OBのお蔭で就職。仕事でもプライベートでも早稲田OB・OGに囲まれ、最近では三田会との交流もあり、人脈がどんどん広がっています。

井上敬公(2004年法学)&井上マルティナ(2001年国際)

オランダ稲門会について

About

オランダ稲門会は、非公式には約30年前から活動していた。現幹部が申請手続きを行い、2010年に晴れて登録稲門会となった。主な活動は親睦会や三田会との合同親睦会の定期開催だ。非公式だが女子会+女子会応援部(自称)も活発で、自宅飲み会や誕生会、鍋会が開催されている。

参加メンバーはかつて、企業派遣組が中心だったが、ここ数年で変わってきた。初の日本国籍のオランダの弁護士である岡野謙次氏をはじめ、大学院博士課程在籍の会員、税理士資格や理学療法士資格取得を目指す会員など、多彩な顔ぶれがそろる。

年齢も所属も肩書きもバラバラだが、大学時代や早稲田界隈の話ともなれば、会話に全く垣根がない。過去のぶっちゃけ話に大笑いしながら、オランダ稲門会の夜は更けていく。



稲門会三田会合同親睦会



2011年5月、会旗が到着

オランダの魅力

Charm

オランダといえば「チューリップ」のイメージに違わず、3~4月のオランダはチューリップが花盛りです。とくにこの時期に飛行機などで上空から見ると、赤、オレンジ、黄、ピンクと色とりどりのチューリップが広範囲で地表を覆い、花の絨毯さながらの様子が楽しめます。もうひとつのオランダ名物は風車。山や急な坂のない平坦地で強風が吹くことから、風力利用は理に

かなった伝統といえます。古風な粉挽き風車小屋から、近年では風力発電用の風車まで多種多様な風車が国内に散在します。

山口陽子(1997年文学)



キューケンホフ公園のチューリップ



チューリップ畑

会長メッセージ

全国各地、全世界の稲門会の皆様、はじめまして。オランダ稲門会を代表してご挨拶申し上げます。私は2010年4月に上海より当地に赴任し、2011年4月より会長に就任しました。副会長、幹事、事務局の方々に支えられ何とか会長職を務めておりますが、神輿は軽いほうがよい例えどおり、若い会員諸氏の活躍にもおおいに助けられています。

オランダ稲門会もそれなりの歴史はあると思いますが、なぜか今まで海外稲門会として登録されていませんでした。今回欧州では12番目の稲門会となりますので、今後ともよろしく交流などを

願います。会員数は昨年行った会員発掘キャンペーンが奏効し、現在では40名近くに増えました。昨年は三田会との初めての合同忘年会も開催し、おおいに盛り上がりしました。

オランダといえば風車、運河、そしてチーズですが、心優しいのもオランダ人の特長です。気さくで温かみのある会にしていこうと思っています。



ゴーダチーズ

関 静夫(1973年商学)